

原発事故が何をもたらしたのか

今こそ冷静に歴史に向き合い

何をなすべきか考えていかなければならない

震災・原発事故から13年を迎える。

時の過行くままに風化は進むが、被害がなかったかのように復興が叫ばれ、人気のない閑散とした景観にひときわ目立つ箱モノだけが屹立している。

深刻な被害から国民の目をそらし、被害責任を放棄する国や東京電力作為的な姿勢があまりにも目に余る。

昨年は、国内外の理解や反対の声を踏み倒して汚染水の海洋放出を強行した。

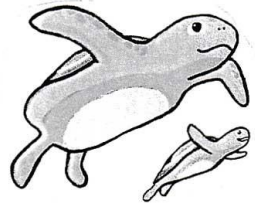
今や長期のわたり汚染水を薄めて海に流し始めている。国や東京電力の倫理観や道徳観の欠如もさることながら、いのちよりも経済を優先する偽非科学や金を担保に、安全・安心の欺瞞を押し付ける強制を断じて許すことはできない。「薄めても毒は毒」とする漁師さんの叫びが真実だ。

福島原発事故被害から健康とくらしを守る会を結成して2年目になる。

みなさまからの心温まる志や連帯署名による政府交渉など、諸活動が始まった。

避難地域の医療費無料措置の継続や汚染地域における被爆者援護法に準じた法整備（健康手帳）を、会は加害者である国の責任を求め、被害者の権利を守ることを目的としている。避難者の被害実情や低線量被ばくへの健康への懸念、失った生業や、歴史や文化、環境への喪失感など、被害の実相や被害者の意思を無視して権利をはく奪する理不尽さは決して許せない。

— 福島原発事故被害から健康とくらしを守る会 事務局長 佐藤龍彦 —



ただ帰りたい 生きていうちに帰ることは叶うまい

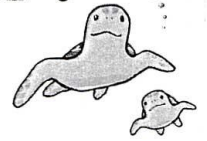
だが 何時かは故郷へ帰る

私が死ねば そこが帰るべき場所だから・・・。

—浪江町津島 被災地の記録—

2024原発のない福島を！

＝ 県民大集会 ＝



能登半島地震から1か月が過ぎました。

日本の周辺では南海・東南海をはじめプレート型大地震が発生する活断層が無数にあり、大地震が、いつ、どこで起きてても不思議ではありません。

事故が起きれば、その影響は広範囲にわたり、多くの犠牲者と大惨事を引き起こします。国は、原発再稼働に前のめりですが、この大惨事を機に、もう一度立ち止まって考え直すことが、いま最も求められていることではないでしょうか。

福島第一原発の燃料デブリに触れた処理しきれない放射能物質を含む「ALPS処理水」が福島県漁連をはじめ福島県民、そして全国・全世界の人々からの反対の声を無視し、海洋放出が強行されました。さらなる放射能汚染を一方向的に押し付けるやり方は、決して許されません。

海は人間のものだけではなく、海にすむすべての生物の命の源です。

自然環境をこれ以上壊さず、人と自然が共生できる持続可能な暮らし、漁師が安心して漁ができ、世界中の人々が海産物を食べたり、海で遊んだりすることに不安を感じない暮らし、誰もが笑顔で安心して、こどもを育てられる暮らし、原発事故で放出された放射能物質に脅かされることのない、安全な生活を私たちは望みます。

と き

2024年3月16日(土)13時～

と ころ

福島市飯坂町 パルせいざか

内 容

— 福島からの発信 —

生産者のおもい 生活再建の状況 健康被害の課題
再生可能エネルギー 若者からの訴え 他

二度と悲劇を繰り返さないよう 私たちは訴えます

「福島を忘れないよう 私たちは発信します。」